目 次

はじめに

- I 危機に瀕する科学 1
 - 1 基礎科学はこれでよいのか 2
 - 2 天職からシゴトになった科学 7
- II 科学者というシゴト 13
 - 3 研究の影に隠れる大学院教育 14
 - 4 商業化される国際会議——失われゆくソサイエティ 19
 - 5 研究者のベーシック・インカム 25
 - 6 研究のマル査 31
- III 学術論文という制度 37
 - 7 学術研究というビジネスの裏側 38
 - 8 論文数はどれほど重要か——置き去りにされる質 43
 - 9 知識の1パーセント則 49
 - 10 ハイエナ学術出版 54
 - 11 ライブラリ化する大学図書館の未来 61
 - 12 オープンサイエンスを誰が支えるのか 66
- IV 不正はなぜ起きるのか 71
 - 13 不適切なオーサーシップ 72
 - 14 信用を傷つける「メガホン科学」 79
 - 15 腐ったリンゴは落ちるか 84
 - 16 研究不正とその対策 90

V 社会における科学のあり方 97

- 17 老後の初心忘るべからず 98
- 18 評価経済社会 103
- 19 技術化する科学 108
- 20 社会のための、個人の科学 113

おわりに 117

用語解説 119